

Management

新体制

インテックは、2023年6月16日開催の定時株主総会後の取締役会において次のとおり新体制を決定しました。

取締役



代表取締役社長
北岡 隆之

取締役 副社長執行役員	MCF事業部、ネットワーク&アウトソーシング事業本部、東地域統括本部担当 特命プロジェクトマネジメント室長	疋田 秀三
取締役 副社長執行役員	企画本部、グループ会社管理、品質革新本部担当	眞門 聡明
取締役 専務執行役員	北陸産業事業本部、行政システム事業本部担当	牧野 賢藏
取締役 専務執行役員	バンキングビジネス事業本部担当	中森 行雄
取締役 専務執行役員	金融ビジネス事業本部担当	大曾根 千朗
取締役 (非常勤)	TIS株式会社 代表取締役 副社長執行役員	柳井 城作
取締役 (非常勤)	TIS株式会社 執行役員	河村 正和

監査役

監査役	上田 伸一
監査役	遠藤 健史
監査役 (非常勤)	TIS株式会社 監査役 浅野 哲也

執行役員

専務執行役員	テクノロジー&マーケティング本部、ビジネスイノベーション事業部担当 テクノロジー&マーケティング本部長	今里 直人	常務執行役員 人事本部担当	辰巳 文一
専務執行役員	北陸産業事業本部長	宮下 毅	執行役員 MCF事業部長	林 鋭範
専務執行役員	管理本部、内部統制(リスク・コンプライアンス、情報セキュリティ)、ビジネスサポート本部担当 管理本部長、ビジネスサポート本部長	五十嵐 陽	執行役員 品質革新本部長	鈴木 智秀
常務執行役員	行政システム事業本部長	谷口 庄一郎	執行役員 人事本部長、人事部長	朽木 直浩
常務執行役員	情報流通基盤サービス事業本部担当 情報流通基盤サービス本部長	飯沼 正満	執行役員 企画本部長	守田 洋一
常務執行役員	社会基盤事業本部担当 社会基盤事業本部長	山口 浩明	執行役員 東地域統括本部長、東地域統括本部事業推進部長	佐藤 靖夫
常務執行役員	バンキングビジネス事業本部長	武藤 敦也	執行役員 ネットワーク&アウトソーシング事業本部長	君塚 修
常務執行役員	金融ビジネス事業本部長	藤山 等史	執行役員 ビジネスイノベーション事業部長、ビジネスイノベーション部長	福山 朋子
常務執行役員	中部西日本産業事業本部担当 中部西日本産業事業本部長	竹村 明弘	グランドエグゼクティブフェロー 品質革新	新海 章
常務執行役員	首都圏産業事業本部担当 首都圏産業事業本部長	堀内 健司	グランドエグゼクティブフェロー 法務、リスク・コンプライアンス、情報セキュリティ	平井 克八
			シニアエグゼクティブフェロー 特命プロジェクトマネジメント室	加藤 三郎
			エグゼクティブフェロー 特命プロジェクトマネジメント室	桑野 修一

Management

2023年3月期決算 第19次中期経営計画の最終年度に向けて「安定した事業基盤の確立」と「新市場の創造」による事業拡大を推進

インテックは、2023年5月9日に2023年3月期の決算発表を行いました。

売上高は1,132億円(前期比6.2%増)、営業利益は136億円(同29.2%増)、経常利益は148億円(同27.8%増)、当期純利益は111億円(同38.4%増)と増収増益となりました。売上高は、銀行向け勘定系・情報系など各種大型案件が好調に推移したこと、製造業向けソリューションおよびネットワーク・アウトソーシング関連ソリューション(クラウドサービス、EDIサービスなど)が順調に拡大したことに加え、自社ソリューションである病理・細胞診検査業務支援システム「EXpath」の新バージョンの提供など、サービス拡充にも積極的に取り組んだことが増収につながりました。

営業利益は、増収効果に加えて、インテックの強みである自社ソリューション(ネットワーク・アウトソーシング関連)の拡販と開発案件の収益性改善(生産性向上・品質革新)に全社的に取り組んだ結果、増益となりました。

新規事業面では、インテックの強みである「プラットフォーム構築力」と「AI」を組み合わせた事業領域を開拓しています。医療分野では「地域医療連携・医療機関連携のサービスモデルの策定・開発」、働き方改革分野では「社会的な責任を果たし成長し続けるために人的資本をどのように捉えるか」というD&Iの取り組みや「お客さまと共に社会課題解決を目指すく未来共創プロジェクト」の実践を進めているほか、食品

分野では「食品ロス削減、農産物原料安定供給(物流DX)のためのシェアリングプラットフォーム事業の立ち上げ(APIエコノミーの創出、産業OS)」、生活分野では「行政のDX、健康のDX、農業のDXによる地方創生」や「自然災害支援のための新たなDXの実証実験」など、さまざまな分野において社会貢献への取り組みやお客さまとの共有価値の創造を進めています。

	2022年3月期実績	2023年3月期実績
売上高	106,593 (△3.3%)	113,208 (6.2%)
営業利益	10,579 (21.5%)	13,665 (29.2%)
経常利益	11,594 (20.1%)	14,822 (27.8%)
当期純利益	8,029 (19.0%)	11,113 (38.4%)

(単位：百万円、括弧内は対前期比増減率)

宮崎県延岡市から全国へ！ 民間物流機能を活用した災害時物資支援を提言

近年、地震・大雨などの自然災害が多発するなか、被災者への物資支援において、必要な方に必要なものが届けられていません。その反面、善意の支援物資が利用されないまま大量に放置／破棄されるという問題が繰り返し発生しています。

このような問題を解決するため、インテックは、平常時の物資物流機能を活用して、災害時に支援物資を適切に届けることを目指しています。そうしたなかで慶應義塾大学SFC研究所や日用品業界のプラネット社、および卸売業・メーカーなどと一緒にワーキンググループを組成し、検討を重ねてきました。

2022年8月からは、宮崎県延岡市を研究開発地域として実地検証を進め、その成果を報告書として取りまとめました。そし

て2023年5月に、ワーキンググループとして延岡市へ報告書として提言し、実活用に向けて進むことが決定しました。

延岡市は、人口約12万人の自治体で、宮崎県北部の中心都市です。全国には同規模の自治体や同じような地域課題を抱える自治体も多く、本取り組みでは、延岡市での課題を解決するとともに、同市を全国のモデル都市として位置づけています。

本取り組みは、慶應義塾大学SFC研究所とインテックの共同ラボである地域ICTプラットフォームラボ活動の一環です。また延岡市とは慶應義塾大学SFC研究所が連携協定を結んでおり、これまでも活動実績を上げています。

日用品業界の主要な企業、地場事業者も交えた、産官学共同での検討により、地に



延岡市への報告書引渡式の模様

足がついた現実的な災害時物資支援の仕組みづくりを進めています。

インテックは、延岡市における研究開発の成果から、共通に活用できるものを定義し、災害時物資支援の仕組みを全国自治体へ展開することを目指していきます。

お問い合わせ先

株式会社インテック
情報流通基盤サービス事業本部 事業企画部
E-mail: idps_kikaku@intec.co.jp



延岡市長ほか報告書関係者のみなさま



スマートシティ・シンポジウムin延岡での様子

Products

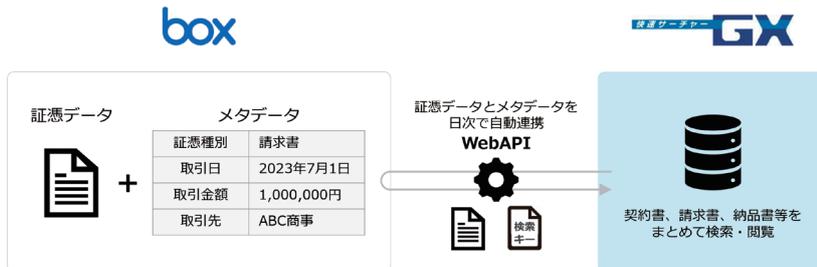
インテックの電子帳票システム「快速サーチャー GX」 コンテンツクラウド「Box」と自動連携するオプションを提供開始

電子帳票システム「快速サーチャー GX」に、株式会社Box Japanが提供するコンテンツクラウド「Box」と連携したオプションを追加し、2023年7月から提供開始しました。「快速サーチャー GX」と「Box」を連携し、「Box」に登録している証憑とメタデータを「快速サーチャー GX」へ自動で取

り込み、安心・安全に電子帳簿保存法対応を実現できるオプションです。

インテックは今後も、さまざまな証憑をクラウドで簡単かつ効率的に電子保管ができるよう、関連サービスとの連携を行い、電子帳簿保存法対応を進める企業をサポートしてまいります。

「快速サーチャー GX」オプションの概要



「快速サーチャー GX」の詳細は、以下をご参照ください。
https://www.einswave.jp/service/form_log/kaisoku_searcher_gx/



①証憑とメタデータの自動連携で 運用負荷を軽減

「Box」に登録されている証憑とメタデータが「快速サーチャー GX」に自動連携されるため、データの管理者は手動での登録作業を行うことなく、効率よく運用できます。

②JIIMA 認証*を取得した「快速サーチャー GX」で電子帳簿保存法対応をサポート

「快速サーチャー GX」は、電子帳簿保存法の法的要件を満たしているソフトウェアとして、日本書情報マネジメント協会 (JIIMA) が、電子帳簿保存法で規定されている要件をお客さまは、システムが法対応しているかの確認をすることなく証憑を保管することができます。

* JIIMA 認証: 公益社団法人日本書情報マネジメント協会 (JIIMA) が、電子帳簿保存法で規定されている要件を満たしているかどうかを示す認証制度のことです。

お問い合わせ先

株式会社インテック
ネットワーク&アウトソーシング事業本部 N&O営業部
E-mail: net_info@intec.co.jp

「インテック ドローンプログラミングキャンプ」を開催

2023年8月2日(水)、3日(木)の2日間、富山市の本社 タワー111において、「インテック ドローンプログラミングキャンプ2023」を開催しました。

この行事は夏休み期間の小学生の皆さんにコンピュータとプログラミングに親しんでもらうことを目的として、インテックの地域貢献・社会貢献の取り組みとして実施したものです。2日間で小学1年生～6年生の計24名が、教育用の小型ドローンを

飛ばすプログラミングを学びました。

会場のスカイホールには、実際のドローン競技で用いられる本格的なコースアイテムが色とりどりに並び、参加者はプログラムの3つの基本構造「順次処理」「繰り返し」「条件分岐」の考え方を当社スタッフから教わりながら、コースの攻略に挑みました。

なかでも、タワー111をモチーフとした高層ビルアイテムを周回してから指定位置に着陸する「繰り返し」のコース課題は、見

た目の簡単さとは裏腹にドローンからの吹き返し風の影響を受けるため難易度が高く、参加者は、なぜうまくいかなかったのか、どうプログラミングしたら解決できるかを創意工夫し、グループ内で教え合いながら何度もチャレンジし、無事着陸に成功した時は大きな歓声が上がりました。

インテックは、今後も子供たちの学びと成長をサポートするプログラミングイベントを開催していく予定です。



初めてのプログラミング



レクチャーを聴く姿も真剣



助け合って高さを測定



うまく飛ぶかな？



タワー111 攻略をシミュレーション



順次・繰り返し・条件を駆使



Day1 参加の皆さん



Day2 参加の皆さん

Survey

お客さまとインテックをつなぐ広報誌「INTEC TODAY」アンケート回答のお願い

インテックは、広報誌「INTEC TODAY」を年2回発行しています。皆さまのご意見、ご感想を誌面づくりの参考にさせていただきますので、右記のアンケートフォームにアクセスの上、ご回答をお願いいたします。

お問い合わせ先

株式会社インテック
テクノロジー&マーケティング本部 広報室
E-mail : intec_pr@intec.co.jp

▶アンケートに答える



<https://www.intec.co.jp/company/intectoday/>